

## 小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

( 網掛け部分は外部評価の調査項目 )

( 別紙 3 )

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービス展開のため、さん愛の理念を作成しています。		よりあい・ふれあい・たすけあい、この3つの愛を理念に盛り込んでさん愛といえます。この理念に沿って、今後も地域の中に溶け込んでいけるよう努力していきます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼等で唱和することで、1人ひとりの意識を高め、毎日のケアに生かしていけるよう心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪される方々が見える場所に理念を掲示し、面談等の際には理解を求めるようにしている。		
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在は近隣の方々との交流機会が少なく、立ち寄っていただきたいが実現に至っていない。		今現在、敷地内に足湯を兼ねたふれあいの場を建設中であり、7月にはできる予定である。ふれあいの場ができ次第、近隣の方は勿論、多くの方の利用が実現するため、声かけをしていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	春祭り神幸祭への参加や地域の幼稚園児等との交流会などを行っている。又、施設主催の行事への参加の呼びかけなど行い、できるだけ地元の方々と交流できるよう努めている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者のいる家庭からの相談や心配事には、その都度対応するよう心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことにより、日常のサービス提供を客観視でき、出来ている事や出来ていない事が分かり易く、出来ていない部分について改善を図っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者家族等の参加により、定期的に運営推進会議を開催し、現在の状況や施設での取り組み等を報告している。その後、皆様の意見等を聴取して今後のサービスに生かしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに介護保険課の窓口に行き、意見等を聞くよう心がけている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などので耳にするが、日常的に学ぶ機会は少ない。		今後、必要性が出てくる可能性もある為、職員勉強会等で学ぶ機会を増やしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの中で、何気なく行われる虐待について、機会あるごとに話し合いを持ち、虐待防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、十分な説明を行っており、利用者やその家族の不安や疑問に対し、常に配慮している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不安、不満、意見が言い易い雰囲気や環境作りを行い、いつでも傾聴を心掛けている。又、意見等に対してはその都度会議などを開催し検討している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の生活や状態の変化、今困っている事などは、その都度電話連絡をするなどしている。又、特に変わりが無い場合は来所した際に現状報告等を行っている。		家族等と関わる機会が持てるよう日頃から努力していき、信頼関係を深めることで、共に利用者を見守る体制作りをしていく。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に対し、相談、苦情に対する措置の概要を分かり易く説明し、事業所としても常に聴取しやすい環境作りをしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な話し合いの場を設け、職員の意見や提案を聞く機会を作っている。又、そこでの意見等は検討を重ね取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やその家族の要望に対し、出来るだけ対応している。又、その為の職員調整も日頃からきちんとは行われている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との関わりは大事にしており、多くの職員との関わりの中で、固定した関係を作らず、皆で仲良く過ごす環境作りをする事で、利用者へのダメージを与えないようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々に職員に対し、1人ひとりの能力が生かせるよう注意深く見守り、職場環境を整えている。又、不安等心配事にはすぐに助言するなど配慮している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者1人ひとりに安心と尊厳ある生活を提供するため、そこに関わる職員の意識の向上を常に図っている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実務者研修の受講や事業所独自の勉強会の実施等で職員の質の向上を図っている。又、定期的に講習会のお知らせ等が来ているので、今後も出来るだけ受講させていきたいと思っています。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、特に行っていない。		今後は、当施設の行事などへの参加等を徐々に呼びかけていきたいと思っている。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の様子等の変化に十分に注意することで、早めの対応を心掛けると共に働きやすい環境作りにも力を入れている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員には、各々の役割、担当制としてホームの質の向上を図るよう、心がけて勤務できる体制を取っている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居等の依頼があった場合は、来所していただき、ゆっくり話を聞く時間を作っている。又、体験的に利用を試みて、不安の解消を図っている。		利用を計画している方は、緊急性の高い方が多く、初期の関係を築く機会が少ないのが現実であり、不安な状態のまま入居に至るケースも少なくない。今後も短時間であっても良く話を聞けるよう努力していく。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の依頼があった場合は、来所又は訪問によって、現在の一番の心配事を中心に、ゆっくり話を聞き、今後の事を含めて一緒に検討している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際等に、現在の状況を十分に聴取し、入居の必要性がない場合を含め、様々なサービスがある事を説明している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まった後は、まずは体験的に何回も来所、宿泊を繰り返す事で、雰囲気を味わっていただき、無理の無いよう心がけている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1日の生活が、一緒に始まり、一緒に経過するという生活スタイルを続けている。だから、利用者も得意なことを十分に生かしながら生活している。		判る事、判らない事、出来る事、出来ない事等を明確化し、出来る部分の拡大を図りながら共に生活する中で、達成感や充実感を味わえるよう支援していく。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	どんな問題も、常に家族とともに考えるよう心がけて、利用者の機能向上などは一緒に喜びあえる関係を目指している。		家族との協力が困難な場合も時々あって、それぞれの考え方に相違があったり、なかなか会えない場合等がある。今後は、家族への呼びかけを増やし、信頼関係を深めていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者やその家族の今までの生活があったことに着目し、本人や家族の意向の違いなどに十分な配慮をしながら支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活が一変した状況の中で、出来るだけ混乱しないよう、家族や知人の訪問を要請すると共に、時には一緒に外出ができるよう援助している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に過ごせる時間作りや同じ目標を持てるよう工夫し、常に声かけをしながら、関係作りをしている。そのため、助け合いの場面なども頻繁に見かける。		新しい利用者が入居した時などは、孤立する傾向が強いが、共通の話題などを見つける努力をし、今後も良い関係作りの援助をしていく。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居や入院等で退居となった場合でも、「いつでも相談ごとなどがあったら来て下さい」と伝えている。今でも入院中の利用者家族から時折連絡がある。		退居後でも、行事等への招待を行っていきたい。
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望する生活とはややかけ離れた環境の中で、できるだけ利用者の立場に立って接するようにしている。		共同生活といった今までに無かった雰囲気が利用者1人ひとりを不安にしている。今後も、個々の不安に正面から対応し、暮らしをサポートしていく。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった時点より、本人及び家族等から今までの生活について聴取し、入居後も利用者との会話の中から生活習慣などを聞き出すなど把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の、行動、言動、出来る事や出来ない事などに対し十分な観察を行い、利用者の現在の状態を把握するよう心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画の作成に当たっては、利用者本人及び家族の参加又は、介護に対する意見や意向を前もって聴取した後にサービス担当者会議を開催し、その中で意見等を介護計画に盛り込んで作成しています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化等がない場合は一定の期間を置いてモニタリングを行い、プランの見直しや継続をしている。又、状況の変化等がある場合は、その都度モニタリングを行うと共にケア会議を開催し、意見などを聴取してプランを作成する。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとにケア記録を作成し、日々の生活や身体の状態などを記録している。毎日の記録を基本に本人の状況を把握し計画に反映している。		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームでは、共同生活介護として日々利用者の生活をサポートする事に重点を置いているが、その中において、利用者や家族の状況や意向があった場合は出来る限りの対応を心掛けたい。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学生などとの交流会、介護体験等を取り入れ利用者が地域の子供たちと接する機会を作っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当施設はグループホームといった特性から、他のサービスの活用はできないが、今後、民間事業等の介護保険外のサービス利用があれば、利用をしたいと思っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、特に行っていない。介護予防の利用者がいない為、地域包括支援センターとの協働はないが、今後機会があれば、関係を築いていきたい。		運営推進会議等の参加を呼び掛けていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	既往歴や現病歴を把握し、現在継続して治療が必要な疾病に対しては勿論必要な援助を行い、病状の変動等に対しては主治医との連携を図っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状等が著しい場合や専門医の受診が必要と思われるような場合は、家族等に相談し、専門医の受診を行い、主治医には詳細を相談するなどして治療が必要な状態の場合は継続して支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所には看護職の職員が従業しており、日頃から健康管理等に配慮しているが、不安な状況等が発生した時には、知人の看護職の方に相談するなどしている。		現在、定期的に訪問看護の訪問を受けており、入居者の心身の状態把握や疾病に対する不安の相談等が行われている。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が体調の悪化等で入院をした場合は、主治医、家族、病棟の看護師等との連携を図りながら、早期退院に向けての協力体制をとっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に今後想定される様々な状況について話し合い、終末期についても聴取している。これを踏まえて主治医とも連携を図るよう心がけている。		入居の契約時に急性期における対応や看取りに関する指針について説明し同意を得ている。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今現在までは、病状の悪化等で緊急入院し、終末ケアの実績はないが、今後、当事業所でも終末ケアを真剣に考えていく必要性を感じています。高齢者である以上、重度化やその先の終末期は今後予測される。利用者が安心して過ごせ、最後の時を迎えるための援助をこれからは準備していきたい。		重度化や終末期について、今後家族、利用者本人、医療機関、当事業所との協議などを行い、より良い環境作りをしていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者や家族の状況によって、住み替え等が必要になった場合は、十分な情報提供や必要に応じて、話し合いを持つよう努め、利用者が安心できるよう支援している。		
	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	1. その人らしい暮らしの支援			
	(1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人的な内容を含む事柄は、利用者1人ひとりに個別に対応し、自尊心を傷つけない配慮をしている。又、個々の問題を他の場所で話題にするなどの行為は禁じている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との対応は、常に目線を合わせるよう心がけ、訴えに対しても、必ず足を止めて話を聞くようにしている。小さな事柄でも一緒に考え、一緒に解決している。		スタッフが多忙で、対応が遅れる事もあるが今後も出来る限り、その時、その場で対応できる体制作りをしていく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を大きく時間分けしているが、常に利用者を優先し、職員は対応をしている。又、プランを計画する際も利用者本人のペースを大切にする事は重要視している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いつでもおしゃれに気を配れるよう、衣服の選択などは一緒に行くようにしている。又、外出の機会を多く持つ事で、自身でも気を配れるようになっていく。		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の調達や食事の準備等に関わる利用者は、できるだけ一緒に行き、関わる事が困難な方は、同じ空間の中で、雰囲気味わえるよう工夫している。		今後は、今まで以上に、個々の好みに合わせた献立の工夫や季節の物を多く取り入れた食事等に配慮していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙については、長年の生活習慣でもあり、抑制はしないを原則としている。それでも疾病などでコントロールが必要な場合は、量の調節を行っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状況を把握するため、個々の排泄パターンを知ることから入り、可能な限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴については、時間、頻度、スタイル等個人によって様々。そのため希望に沿って対応できるよう工夫している。		朝でも昼食前でも夕食後でもいつでも入浴事が可能であるため、入浴の声かけは随時行っている。今後も続けていく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の居室が過ごしやすい環境であるかを常に気を付ける。又、共有スペースでは、ゆったりと過ごす環境作りを心掛けている。		利用者が、一人でゆっくりできる空間作りは今後も、増やしていきたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や習い事を取り入れて、興味のある方は参加できている。又、庭仕事が好きで利用者と一緒に野菜作りをするなど、1人ひとりに合わせて色々な事を計画しながら支援している。		
62	お金の所持や使うことのできる支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる利用者については、自身によってある程度の金銭を保有している。又、やや管理に問題があると思われるも、家族の理解を得て、少額程度は持てるようにし、一緒に買い物なども楽しめている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周辺環境が良く、日常的に屋外の散歩などが楽しめるようになっていく。又、花見や山菜取りなど季節に合わせて毎月数回は出かけるなどしている。又、外出を好まない利用者に対しては、苑庭での過ごし方を工夫している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候や季節に合わせて、神社やお寺に参り、海沿いの町に魚料理を食べに行ったり、大潮には、潮干狩りを計画したりと、年間を通して様々な所に行けるよう援助している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望するときには、必ず援助している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人等が訪問しやすい施設作りに力を入れている。又、施設内でも一緒に過ごし易い雰囲気作りをしている。帰り際には、気軽に来ていただけるよう声かけ等を行っている。		今後は、遠方に居住している家族の訪問が気軽にできるよう、宿泊できるスペース等も検討したい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の身体的拘束は勿論、行動を制限する事も当施設では行わないよう、まずは利用者の心身の安定を図る事に努め、過ごし易い環境作りや落ち着く雰囲気作りをする事で、常に問題行動の減少に取り組んでいます。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設は、鍵をかけないケアを心がけており、玄関の扉などは屋外の風を通すため、開放している事も多い。又、テラスなどは自由に出入りでき、閉じ込めないケアを実践している。		今後も、利用者の活動性を高め、心身の機能低下が予防できるよう効果的に支援します。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の利用者の状況に合わせるよう日頃から心がけながら、十分な見守りを行い、安全に過ごせるようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活を送る上では、不自然な環境は違和感があるため、当施設では、家庭的な雰囲気を大事にしている。そのため、利用者1人ひとりの行動パターン等に気を配り危険回避している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者1人ひとりの困難な部分を十分に把握をする事と、リスクマネジメントについての勉強会なども検討している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し応急手当の手順や対策を明記し、施設内にも置いている。又、定例でのミーティング等でもひやりはっと報告書を中心に話し合う機会を持ち、予防策等を検討している。		今後も、早期発見に努める事で大事に至らないよう勉強会等を行っていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害に対する措置の概要の中で訓練の実施や行政区(地域)の協力体制、非常時の対応等を明記し、定期的に避難訓練なども実施している。又、職員の緊急時の連絡体制も確保できている。		今までは、緊急事態の発生がなく、発生した場合の不安はあるが、日頃から職員全体で、もしもの時の対応を確認していく様にします。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居の際は勿論、その都度家族に対しては、日常生活上様々なリスクがある事を説明している。職員は、1人ひとりの状況を踏まえて声かけや見守り等で危険回避できるよう支援し、利用者の行動はできるだけ制限等しないよう心がけている。		今後もより質の高いサービスを提供する事によって、様々な事故などが未然に回避できるよう職員、家族等と話し合いを持ちたいと思っています。



番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の生活の中で、顔色、活気、食欲、訴え等を観察し、適宜バイタルチェックなども行い、早期発見に努めるよう心がけている。又、体調の変化等は家族や主治医へ早急に報告するようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の説明書は個々の薬の保管箱の中に入れており、いつでも見られるように工夫している。又、体調の変動等にも注意を払うよう指導しながら支援している。		個々に薬ケースを作り、一週間分を朝、昼、夕と3つに分けて整理している。その事で飲み忘れ等が防止できている。ただ、服薬量の多い利用者やコントロールが必要な薬については今後も管理の仕方等を工夫する必要がある。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々によってコントロールが難しく、服薬や食事内容、水分摂取等で様子を見ながら、主治医とも相談している。		1人ひとりの排便パターンが把握でき、負担なく排泄できるよう今後も取り組んでいく。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後や就寝前は口腔洗浄を呼びかけており、困難な利用者に対しては、援助をしている。		口腔内の汚染は、感染症の発生にも影響する為、今後も清潔が保持できるよう個々に合わせて対応したい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は必ずチェックや記録をし、好き嫌い等のある方に対しては摂り易く献立等を工夫している。又、水分については、個人差が大きく、時期によっては発汗や排泄などで水分が不足する為、適宜調節に心がけて対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成し、感染経路や原因を把握するよう心がけ、感染を予防する事は勿論、感染した場合の対処法を実践できるよう指導している。又、利用者や職員の手洗いについては毎日取り組んでいる。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材を多めに購入せず、残り物なども作らず出来るだけ保存しないよう工夫している。又、食器等は洗浄に充分注意し、乾燥器にて殺菌乾燥している。		今後も、発生しないようにする事は勿論ですが、食中毒が発生した場合を想定した対応などもスタッフ全体が理解できるよう勉強会等を行っていきたい。
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設全体を常に開放して、建物内は勿論、周辺環境も親しみやすい雰囲気作りに心がけている。		現在、建物周囲の環境を整備している。できるだけ多くの方に施設を訪問していただけるよう声をかけていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は自分の場所として落ち着く環境作りを家族や利用者と一緒に相談しながら行っている。又、共有スペースについては、家具の配置や四季を感じる草花、常に外の風を取り込むなど、心地良い空間作りを行っている。		未だ入所施設との考えのある家族が多く、利用者の毎日の暮らしがそこにある事に着目していただき、今までの生活習慣を取り入れた空間作りを勧めていきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者は、自分の安らぐ場所を見つけている様子にて、それぞれが気の合う同士になって過ごしている。		仲間に入れない利用者が、どうしても孤立する傾向があり、その方たちが落ち着ける環境や雰囲気はこれからも続けていきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、家族や利用者にとできるだけ使い慣れたものを持参するよう伝えている。又、入居後は利用者の好みを知るように努め、居室の家具の配置などは相談しながら行っている。		破る、捨てる、昇るなど何を置いても危険な状況になったり、物が粗末になったりする為、居室に何も置けない利用者が居られるが、自分の部屋としての愛着を持って生活できるように今後も工夫していく。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は出来るだけ外気を取り込むようにし、自然な空間で過ごしていただき、衣服の調節等に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は出来るだけ段差を無くし、移動の動線の長い場所には手すり等を設置している。又、共有スペースでは、家具等を移動しやすく配置するなど工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人ひとりの出来る事、できない事を把握し、出来ない部分を中心に声かけや援助を行うことで、日常生活が自立でき、満足できるよう支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当施設は広大な敷地の中に位置しており、2ユニットを通してウッドデッキがあり、生活空間を大きくとっています。苑庭には、グランドゴルフ場、足湯が楽しめる地域との交流スペース、畑があり季節を通して利用者が楽しめるようになっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の生活が何気なく経過するといったゆったりとした環境作りに力を入れている。又、1人ひとりが自分らしく過ごせる雰囲気大切にしています。今現在、施設周辺の環境なども充実できるよう取り組んでいます。今後も入居者と職員との関わりの中で、家族のような関係作りを心掛けていきます。